

ムダと考えられるものやフォーマルな世界に当てはまらないものも、違った角度からとらえると意味を持つことがある。市場原理にもとづく経済性、合理性だけでは理解しえない価値が交換され、共有されていく動きや、近代化のなかで見捨てられた世界観が再び結びあう世界、こうした矛盾と多様性が混交するなかでムダはあらたな魅力を放つ。「豊かなムダ」と「貧しいムダ」がせめぎあう中で私たちは地域研究から何を発見しえるのか。またその学術的営みは、私たちの日常の暮らしのなかでどういった問題をつきつけるのか。本ワークショップでは、ムダがもつ魅力とその潜在性について、空間、資源、宗教実践、制度から多面的な光をあてていく。

ムダの魅力—地域研究の潜在性

【日時】 10月21日（火）午後3時～5時半

【場所】 京都大学稲盛財団記念館2階セミナー室213室

【テーマ説明】 王柳蘭（京大白眉センター、地域研 CIAS）

大石高典（総合地球環境学研究所）

【発表者】

岡田勇（CIAS）「なだれ込む中古車はムダか—今日のボリビアにおける違法性と合法性」

和崎聖日（CIAS）「旧社会主義・世俗国家でシャリーアはムダか—ウズベキスタンにおける婚姻を事例として」

濱田信吾（総合地球環境学研究所）「雑魚と食の生態学」

アンドレア・フローレス・ウルシマ（CIAS）「Death and Life of Modern Cities: What is Vital to Cities and Regions in Japan of the High Growth Period?」

【コメンテーター】

阿部健一（総合地球環境学研究所）

■ 問い合わせ先：京都大学地域研究統合情報センター

王柳蘭 (wliulan@cias.kyoto-u.ac.jp)